

景気動向調査 令和5年8月分（令和5年8月末現在）

大分県中小企業団体中央会では、県内中小企業の現況、課題を迅速にとらえ、これらの情報を行政等へ提供するとともに、本会事業の活用に資することを目的に、中小企業団体情報連絡員事業を実施しています。

この事業では、県内の主要業種46組合に「情報連絡員」を設置し、毎月の景況調査報告(前年同月比)を収集しています。

【8月の景況】

8月のDIは、9指標のうち、1指標が好転、5指標が悪化、3指標が変わらずという結果となった。主要3指標は、悪化もしくは変わらず。先月と比較して、売上高DIが2ポイント悪化、収益状況 DI と景況感 DI が±0で変わらずとなっている。全9指標のうち、雇用人員DIを除く8指標が、悪化もしくは変わらずという状況となっており、全体として停滞感がみられる。なお、原油や原材料の価格高騰による価格転嫁を受けて、販売価格DIは依然として+39ポイントと高い水準にある。



景況感 DI 値

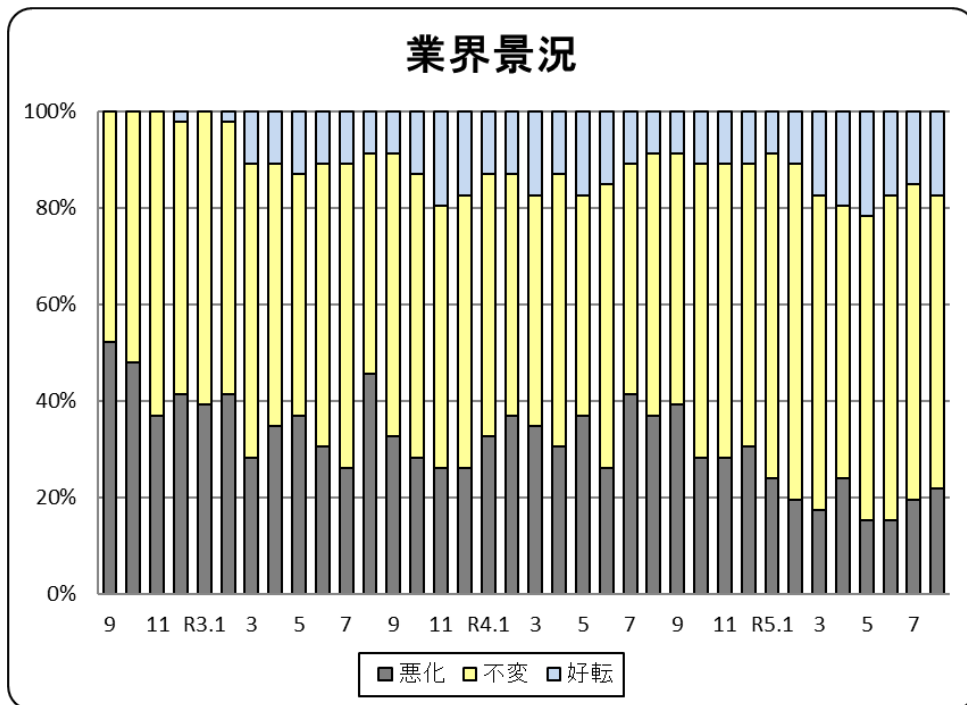


参考：日本銀行「企業短期経済観測調査」（大分支店調査分）

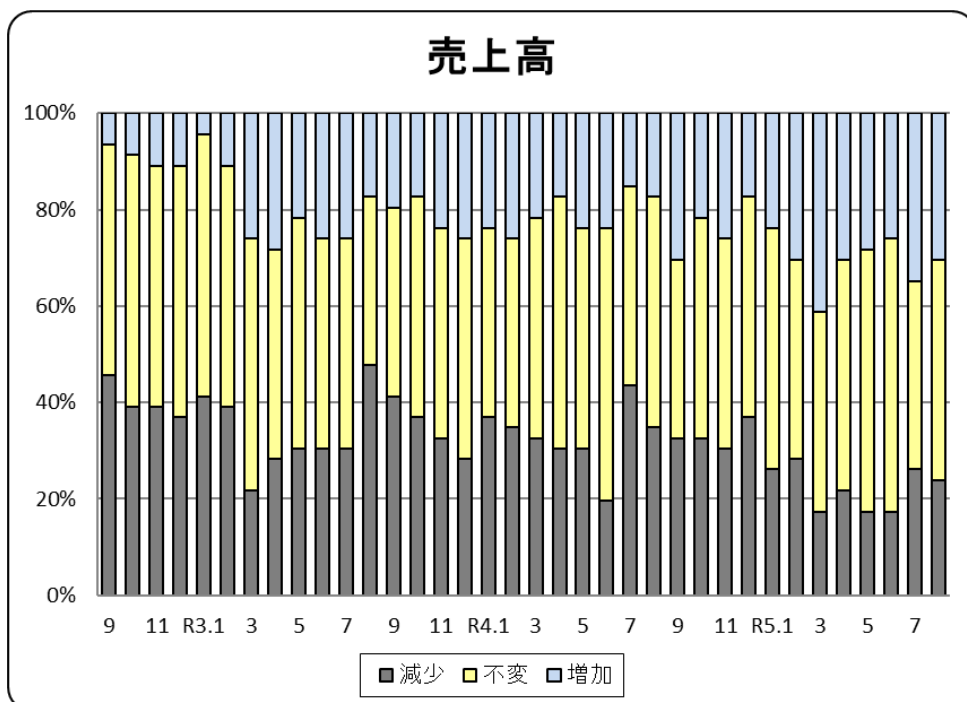
【主な調査項目での動向】

主要な調査項目を見ていくと、景況感DIは、 $\Delta 4.3$ ポイントで前月と変わらず。売上高DI値は、 $+7$ ポイントで前月より2ポイント減少。収益状況DI値は、 $\Delta 9$ ポイントで前月と変わらず。雇用人員DI値は、 $\Delta 7$ ポイントで前月より4ポイント増加という結果となった。

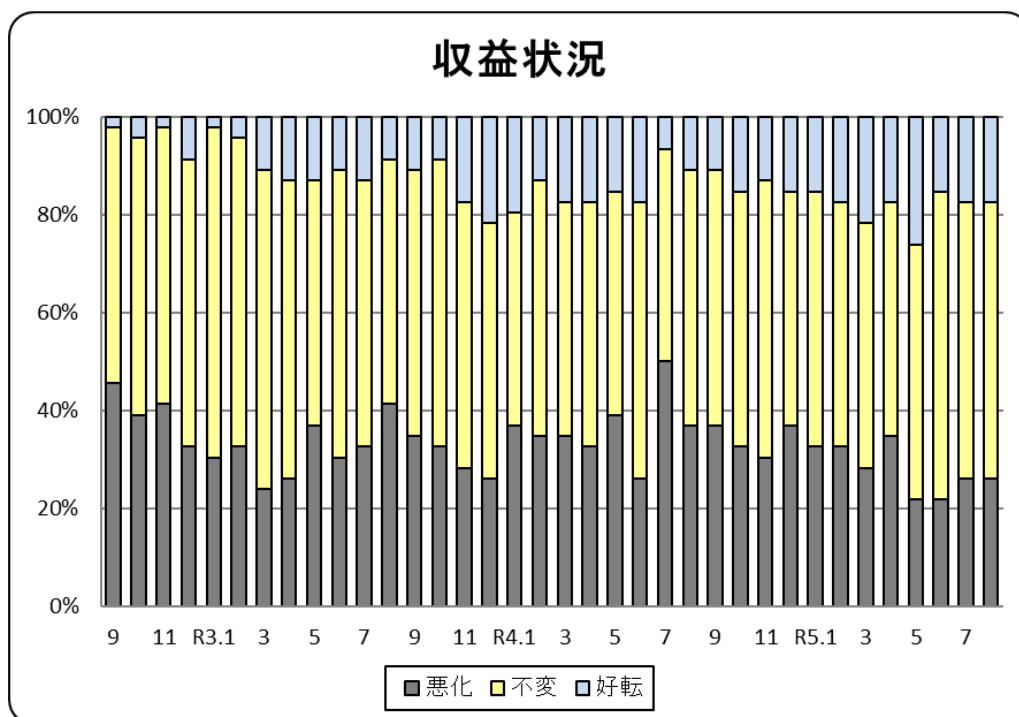
景況の動向は、好転は8組合、悪化は10組合であった。DI値は $\Delta 4.3$ ポイントで前月と変わらず。割合で見ると、好転17%、不変61%、悪化22%であった。なお、製造業の景況感DI値は $\Delta 24$ ポイント、非製造業の景況感DI値は $+7$ ポイントであった。



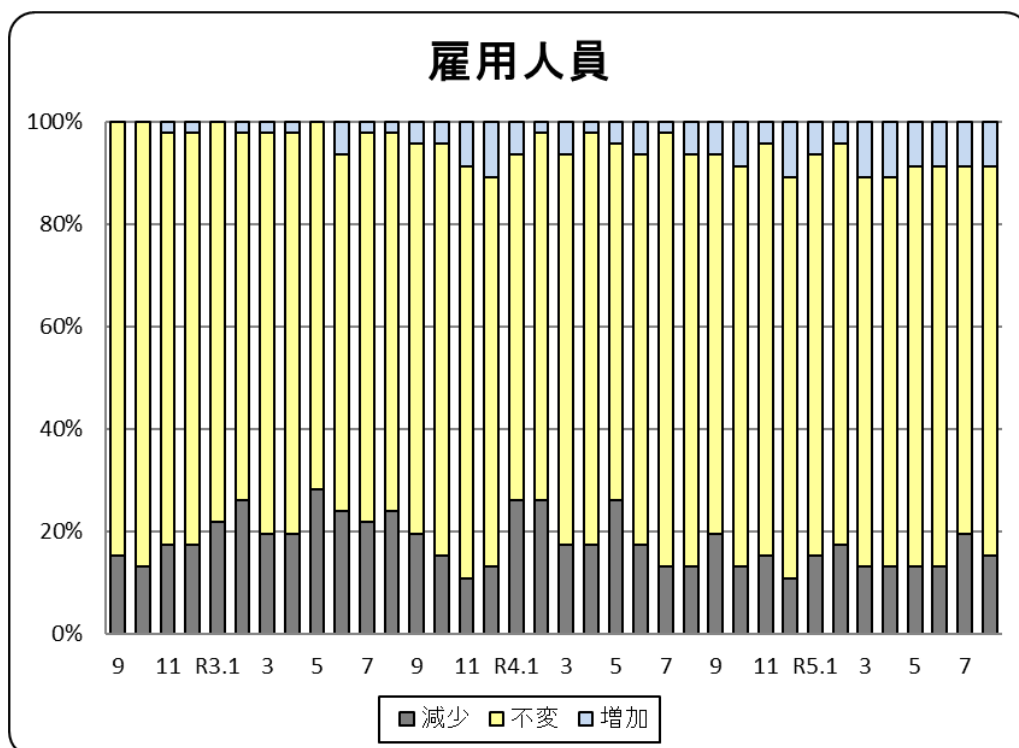
売上高の動向は、増加は14組合、減少は11組合であり、DI値は $+7$ ポイントで前月から2ポイント減少。割合で見ると、増加30%、不変46%、減少24%であった。



収益状況の動向は、好転した組合は8組合、悪化と回答した組合は12組合であった。DI値は△9ポイントで前月と変わらず。割合で見ると、好転17%、不変57%、悪化26%であった。



雇用人員の動向は、増加は4組合、減少は7組合であった。DI値は△7ポイントと先月より4ポイント増加。割合で見ると、増加9%、不変76%、減少15%であった。



(集計方法)

※DI 値(前年同月比) = [(増加・好転組合数 - 減少・悪化組合数) / 調査対象組合] × 100

(業界の景況についての項目を「好転」割合から「悪化」割合を引いた値をもとに作成します。)

※小数点以下四捨五入

主要3指標の前年同月比DI推移【大分県】

